

令和4年度 学校自己評価システムシート（県立松伏高等学校）

目指す学校像	学力の定着及び向上と、専門的な技術・能力の伸長を図るとともに、幅広い社会性を身につけさせ、地域に信頼され貢献できる人材を育成する。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程や学習指導計画及び授業の工夫・改善を進め、学ぶ意欲と学力を向上させる。 2 キャリア教育を進め、高い進路意識を育み、進路希望を実現できた生徒の割合を高める。 3 生徒会活動や学校行事の質を高め、部活動を活発化させる。 4 規律を重んじ、地域に信頼され貢献する教育活動を推進する。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	4名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	13名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲をより高め、学力向上を図っていく必要がある。 生徒の学習習慣の定着、学習時間の増加に引き続き取り組む必要がある。 ICTの活用について、研究を進め実践を積んでいく必要がある。 新学習指導要領の実施に伴い、観点別評価の実践や研究を進める必要がある。 	組織的な取組の徹底（各教科の自己評価シートの作成、ICT活用スキルの向上等）	<ol style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着が必要な生徒に基礎学力向上補習を実施する。また教務部と進路指導部の連携で進路補習を実施する。 ②各教科で予習、復習の指導を粘り強く続け、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ③書籍選定の工夫、図書館の新検索システムの活用等で学習意欲・学力の向上に資する。 ④ICTに係る研修会を引き続き行い、教員のICT活用スキルの更なる向上を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学習未定着者数が減少し、進路補習の講座数、参加者数が増加したか。 ②生徒の学習時間が増加したか。 ③本の貸出数や図書館利用が増加したか。 ④研修会等で教員のICT活用への意識やスキルの向上が進められたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学習未定着者に対する補習への参加者は増加した。通年の進路補習については講座数を増やし、参加者も増加した。 ②生徒アンケートでは毎日勉強していると回答した生徒がやや増えた。 ③利用率は60.6%に増加した。貸出数は3121冊でやや減少した。 ④生徒一人一台のタブレット導入を見据えた研修会を開き、教員のICT活用への意識、スキル向上を図ることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習未定着者に対する補習、進学希望者への補習を引き続き実施していく必要がある。 家庭学習定着のためにさらなる方策を考えていく。 引き続き、図書館の利用者、本の貸し出し数を伸ばしていく。 新1年生のタブレット導入に伴い、活用方法の研究開発を進める必要がある。
		観点別評価の円滑な実施	①特別委員会で評価方法や課題を検討し、職員全体が共通理解のもとで実施する。	①特別委員会を中心に、評価の在り方を共有して実施することができたか。	①各教科で3つの観点に基づいた評価方法を共有し、共通理解を深めて実施できた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 高校入学後も進級・卒業に向けて、進路補講以外にも補習をやっていたりしていることは中学校としてありがたい。 タブレットは授業の手段であってそれを使ってどのような授業をしていくのかが大事ではないか。 タブレットも活用を始めれば様々な課題が出てくるはずだが、その中でも前に進めていく必要がある。 観点別評価の実践は難しいところもあるが、今後も中高で情報共有をしていきたい。 主体的な学びの育成が必要である。
2	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導にきめ細かく取り組み、生徒一人一人の進路希望の実現に尽くしている。引き続き生徒には将来について考える力を身につけさせ、進路実現に向けて適切な指導を行う。 	大学入試、共通テストに対応した進学指導及び進学・就職希望に応じた個別指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> ①進学希望に対応した補習の実施し、模擬試験を活用する。 ②進路意識を育てるためにスタディサプリを活用する。 ③就職希望の実現のためにハローワークとの連携や企業との密な連絡、ICT(HANDY進路室)を活用する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①補習内容の充実、補習参加者は増えたか。 ②活用により、生徒の進路意識は向上したか。 ③就職希望者の内定率100%を引き続き達成することができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①夏期休業中の講習は講座数、参加人数ともに増加した。 ②スタディサプリのサポートテストを1・2年全員受検するなど基礎学力の定着から進路意識を醸成した。 ③HANDY進路室の活用等、きめ細かい指導の結果、学校斡旋の就職内定100%を達成している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けて考える力を着けさせ、先を見て早めに行動できる主体性を育成する必要がある。 生徒がスマホで求人票を見ることができるHANDY進路室を一層活用し、来年度も学校斡旋の就職希望者の内定率100%を目指す。一方、進学希望者の進路実現にも講習を開講するなど力を注いでいく。 来年度も各種検定の合格率、上位級の合格者数を伸ばしていく。
		各種検定や高度な資格取得の更なる推進	①情報ビジネスコースでの系統的な取組に加え、普通科の生徒にも積極的に資格取得に取り組ませる。	①進路希望に応じた資格取得に取り組む生徒数は増加したか。	①日商、全商簿記、珠算、電卓、情報処理、ビジネス文書等の合格率は昨年並みであった。全商簿記1級に1名合格することができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革を進める中で行事・部活動の在り方を模索していく必要がある。 考える力等をつけさせるための動機付けとしてMatsubushi Eight Policyのような指標は非常によいと思う。
3	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の学校生活が続く中、できる限り学校行事、生徒会行事を実施している。引き続き感染予防を取りながら、生徒の主体的な活動を大切にし、教育活動で生徒に身につけさせたい力(Matsubushi Eight Policy)を明示することで、職員・生徒が意識的に取り組み、教育効果をさらに高めていく必要がある。 	主体性を大切にしたい生徒会活動等の実施と学校行事の充実	<ol style="list-style-type: none"> ①感染予防対策を講じながら、生徒会本部役員の「やりたい」を形にして生徒会活動を活性化するか。 ②生徒会本部を中心に生徒会組織の連携を図り、生徒の主体性を大切にしながら学校行事を作りあげる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒会本部役員を中心とした自発的な活動により、活動が活性化したか。 ②行事を通して生徒の様々な力を伸長することができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒会役員が理想を持ち意見を出し合えるようになった。文化祭では満足度も高く活性化された。 ②Matsubushi Eight Policyでの身につけたい力を体育祭、文化祭アンケートで検証し、生徒が様々な力を身につけたことが分かった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事は一通りでき生徒会生徒の成長も見られたので、今後も生徒の主体性を大切にし、その実現方法を考えさせていく指導が必要である。 生徒に身に付けさせたい力を明確にした指導を進める必要がある。 分校との交流を一層進めていく必要がある。
		ガイドラインに応じた活動の中での部活動の活性化	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒会本部を中心に部活動の活動状況を取材し、HP等で広報する。 ②生徒玄関を利用して文化部の発表の場を作り、活動を活性化するか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①部活動の活動報告で、HPの活用が進んだか。 ②文化部の活動成果発表を通じて、活動が活性化したか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①部活動の活動状況を年3回HPで発信し、活性化につなげた。 ②生徒玄関を利用した文化部の発表の場作りについては、引き続き実現に向けて検討していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 余裕を持った登校指導を継続し、交通事故ゼロを目指す。また、自転車のヘルメット着用の努力義務化を周知していく必要がある。 ルールを守る、規範意識の醸成など、今後も指導が必要である。時代の変化に対応した指導の在り方を検討していく必要がある。 コロナ禍によりPTA活動が縮小され、今後の活動のあり方を検討していく必要がある。
4	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かい礼節・マナーの指導を通して、落ち着いた雰囲気の中で教育活動が展開できている。今後も集団の中の一人として、自覚と行動する力を身につけさせていく必要がある。 長年地域との連携を大切にしてきた実績がある。今後も地域との連携を大切に、本校の教育活動の魅力を発信することで、地域に信頼される学校づくりを推進する。 	挨拶・遅刻・服装等規範意識の醸成と安心・安全な学校生活の維持	<ol style="list-style-type: none"> ①挨拶ができマナーが守れるように、きめ細かく対応しながら生徒に気付かせる指導を行う。 ②交通安全教室の実施やPTAと連携した交通安全指導を実施する。 ③いじめ等がないか早期発見するために、学校生活アンケートを複数回実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の挨拶・マナーへの意識は高まったか。 ②交通事故件数が減少したか。 ③学校生活アンケートを複数回実施し、組織的な取り組みができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒アンケートで90%近くの生徒が挨拶をきちんとしていると回答しており高い意識を持っている。 ②今年度は4件で減少した。 ③学校生活アンケートを1/23現在2回実施し、学年・分掌と共有して組織的に取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 余裕を持った登校指導を継続し、交通事故ゼロを目指す。また、自転車のヘルメット着用の努力義務化を周知していく必要がある。 ルールを守る、規範意識の醸成など、今後も指導が必要である。時代の変化に対応した指導の在り方を検討していく必要がある。 コロナ禍によりPTA活動が縮小され、今後の活動のあり方を検討していく必要がある。
		地域・保護者と連携した取組の推進とHPを活用した本校の魅力を発信及び生徒募集活動の改善	<ol style="list-style-type: none"> ①松伏町を中心に地域との連携を積極的に行い、地域貢献を通じて本校に対する理解を一層深める。 ②「松高新聞」を定期的に発行し、地域の小中学校等に配布する。 ③HPの中学生向けのページをより利用しやすくなるように改善する。 ④学校案内の内容をより魅力が伝わるよう内容、デザインを見直す。 	<ol style="list-style-type: none"> ①松伏町等が推進する事業を通じて地域・保護者との連携は推進できたか。 ②本校の魅力を広く伝えることができたか。 ③中学生向けのページは改善できたか。 ④学校案内の内容等見直しできたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①松伏町とは例年通り多くのことで連携することができた。また、今年度は松伏ロータリークラブとも連携することができた。 ②松高新聞を月1回発行し、町役場、近隣小中学校に配布した。 ③画面をスクロールすることで必要な情報が取れるように改良した。 ④学校案内の見直しを図り、身につけさせたい力Matsubushi Eight-Policyを明示した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナで縮小した地域と学校の交流を少しずつ戻していくことが望まれる。